

8月31日(水)、NHKの「クローズアップ現代+」(どうするマンショントラブル?“新ルールで住民激震”) で新狭山ハイツが紹介される

出演者

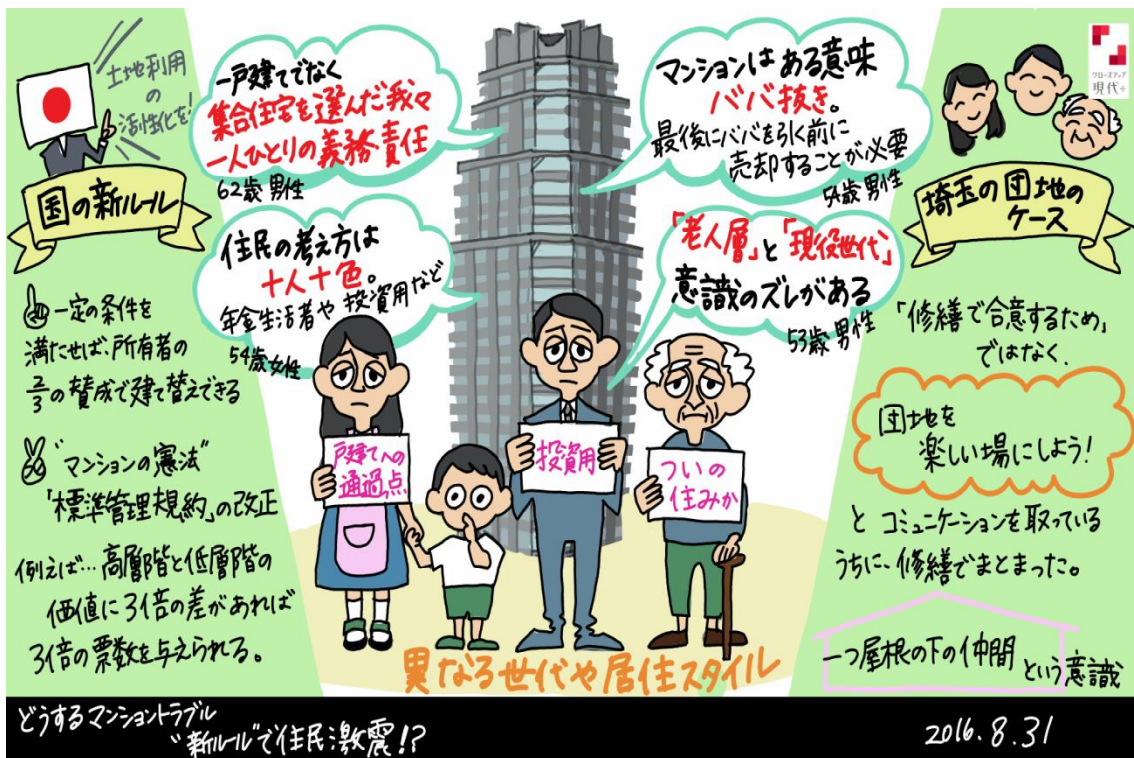
- 平山洋介さん (神戸大学教授)
- 室井佑月さん (作家)
- 久保田祐佳 (キャスター)

番組のねらい

多くのマンションや団地で老朽化が進み、住民は建て替えか修繕かの選択を迫られている。国は今年、住民合意がスムーズに進むよう新制度を相次いで導入。一定の条件を満たせば所有者の3分の2以上の賛成で建て替えられるよう法律を改正するなどしたが、合意は容易ではない。他にもペットや駐車場、管理費など、マンション住民の悩みはつきない。大切な住まいの未来をどう決めていけばいいのか。納得できる合意作りのヒントを探る。

どうするマンショントラブル!? “新ルール”で住民激震!?

都市部では、マンションや団地などの共同住宅が多く、東京では住宅の7割を占めています。さまざまなトラブル、人ごとではありません。中でも、特に深刻なのが、老朽化です。築40年以上の分譲マンションは今後、急増する見込みで、平成に入って建てられた住宅も、近い将来必ず「建て替え」か、「修繕」かの選択を迫られます。しかし、分譲マンションで建て替えが済んだのは、この40年で、わずか227件。老朽マンションの2%にも満たず、ほとんど進んでいないのが実情です。こうした中、国は所有者の5分の4以上の同意がないと進められなかった建て替えを、一定の条件を満たせば、3分の2以上の同意だけで進められるよう、法律を改正しました。合意を促そうという、この新たなルールの導入に、現場では波紋が広がっています。



ハイツの登場場面

さらに老朽化した建物をどうするのかという大きな問題でも、この春、全会一致で合意した団地があります。

埼玉県狭山市の770世帯。

建て替えではなく、修繕しながら、このまま住み続けていく事を決めました。



新狭山ハイツがNHKの「クローズアップ現代+」で取り上げられる

(詳しくはNHKのオンデマンド参照、毛塚が取材対応)

<http://www.nhk.or.jp/gendai/articles/3855/1.html>